



目的を達成するまでに生じる障害やギャップへの対応を意味する。

企業の永続性獲得には、社会から求められる存在であり続ける必要がある。陣頭に立つ経営者は、自社の存在意義を明確に示したうえで、社会の変化に対応すべく、組織全体が自律的に思考しさまざまな課題に対応し得る組織文化を醸成していかなければならない。

課題解決力は、目標と現状のギャップの特定、その原因の分析、解決策の実行を通して、目標を達成に導く能力を指す。「問題解決」が現在発生している事柄への対応であるのに対し、「課題解決」は

課題解決力は、①課題発見

力②潜在的な問題点や改善点を見つけ出す力③論理的思考力④物事を整理し、論理的に道筋を立てて考える力⑤分析力⑥課題の根本的な原因を特定し、要因を分析する力⑦解決策立案力⑧分析結果に基づき、効果的で実行可能な解決策を考える力⑨連携力⑩チームや関係者を巻き込み、合意形成を図る力⑪主体性・実行力⑫主体性をもって課題に向き合い、関係者の協力を得つつ実行に移す力⑬標準化力⑭有効な対策を標準的な手段として定着さ

課題解決力を磨く

せる力、の七つの主
な要素に分解でき
る。
また、課題解決の
手順は、第1ステッ
プ「課題の把握」
何をもってベストな
状態とするのか、ゴ
ールの明確化、第2
ステップ「原因の究
明」①「なぜなぜ分
析」②「フィッシュボ
ーン図」など分析手
法活用による原因の
究明と真因の特定、
第3ステップ「解決
策の提示」①関係部
署などとのコミュニ
ケーションを密に
し、具体的な解決策
(アイデア)の実現
可能性の探求と優先
順位の決定、第4ス
テップ「課題解決の
ための行動と評価」
①アクションプラン

また、組織成員の課題解
決力を向上させるには、日々
の出来事に疑問を持ち、原
因と解決策を常に考える習
慣づけが重要となる。例え
ば、自身が担当する仕事に対
して「なぜそうするのだろ
う」と一度立ち止まって考え
る、物事を結論と根拠に分け
論理的なつながりを捉えな
がら理解する「ロジカルシン
キング」や結論を適切な根
拠や基準に基づいて吟味す
る「クリティカルシンキン
グ」を繰り返す、内省の時間
を日常の習慣とするのも良
いだろう。加えて、グルー
プディスカッションなどを交
えた研修を全社的に取り入
れるのも効果的である。課題
解決力の向上には、かなりの
時間を要することから、組織
全体として習慣化できるよ
う早急な取り組み開始を期
待する。

正解のない時代に立ち向かう

また、組織成員の課題解
決力を向上させるには、日々
の出来事に疑問を持ち、原
因と解決策を常に考える習
慣づけが重要となる。例え
ば、自身が担当する仕事に対
して「なぜそうするのだろ
う」と一度立ち止まって考え
る、物事を結論と根拠に分け
論理的なつながりを捉えな
がら理解する「ロジカルシン
キング」や結論を適切な根
拠や基準に基づいて吟味す
る「クリティカルシンキン
グ」を繰り返す、内省の時間
を日常の習慣とするのも良
いだろう。加えて、グルー
プディスカッションなどを交
えた研修を全社的に取り入
れるのも効果的である。課題
解決力の向上には、かなりの
時間を要することから、組織
全体として習慣化できるよ
う早急な取り組み開始を期
待する。

